

授業概要

前半（8回目まで）では国際経営に関する基礎的な理論について講義し、後半（9回目以降）はアジア各国の企業経営について事例をもとに解説する。具体的には、①日系企業の国際化と対外直接投資の歴史的背景、②国際経営に関する基礎的な理論、③アジアの5つの国と地域を対象に、それぞれの事例について講義する。グループディスカッションも予定しており、他の受講生の考えを聞くと同時に、自身の考えをまとめて発表することも行う。必要に応じて、内容に関連する映像資料も利用する。

授業計画

第 1 回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について解説する。
第 2 回	国際経営・アジア経営とは何か
第 3 回	日本企業の国際化と対外直接投資
第 4 回	国際経営戦略
第 5 回	国際マーケティング
第 6 回	海外生産
第 7 回	技術移転と海外研究開発
第 8 回	コーポレートガバナンス
第 9 回	アジアの経営①：韓国
第 10 回	アジアの経営②：台湾
第 11 回	アジアの経営③：中国
第 12 回	アジアの経営④：タイ
第 13 回	アジアの経営⑤：ミャンマー
第 14 回	ケースについてのグループディスカッション①
第 15 回	ケースについてのグループディスカッション②
第 16 回	筆記試験

到達目標

- 日系企業による海外直接投資の歴史と現状を理解し、国際経営の理論と各国の特徴の両者について理解することで、縦串・横串の両面からアジア経営の実態を具体的に理解できる。
- 海外における経営のあり方について、学生一人ひとりが自身の考えを持つことができる。

履修上の注意

1. 講義内容や授業全体に関わる重要事項を第 1 回目に説明する。単位認定に関わるので、必ず第 1 回目の授業に出席すること。
2. 「国際経営論」も履修することが望ましい。
3. やむを得ない欠席は「履修にてびき」に記載の手続きをすること。
4. 公共交通機関の遅延などのやむを得ない場合を除き、授業開始から 15 分以降の入室は、欠席として扱う。

予習・復習

予習：各回の講義で予定されているテーマについて、事前に書籍やウェブサイトで情報収集すること。また、新聞・ウェブサイトで取り上げられているアジア経営に関する記事をよく読むこと。
復習：配布した参考資料を読み、復習すること。

評価方法

筆記試験 70%、ディスカッションの貢献 20%、ディスカッション後の振り返りシート 10%

テキスト

特に使用しない。講義内容に応じてプリントを配布し、参考書を適宜指示する。